

## 一般社団法人日本老年歯科医学会 平成27年度第8回理事会（持ち回りメール会議）議事録

日 時：平成28年1月25日（月）～28日（木）

場 所：メール会議

承認日：平成28年1月29日付け

送付者：櫻井 薫 理事長、下山和弘、羽村 章両副理事長

佐藤裕二、水口俊介、深山治久、那須郁夫、柿木保明、菊谷 武、市川哲雄、菅 武雄  
植田耕一郎、小野高裕、河相安彦、眞木吉信、武井典子、井上農夫男、小正裕、  
皆木省吾、渡邊裕、平野浩彦、高井良招、米山武義、又賀 泉、角 保徳、森戸光彦、  
山根源之 各理事

（計27名）

協議事項：

1 『老年歯科医学用語辞典』（第2版）の発刊

平成28年3月31日発刊予定の本件にあたる内容について承認した。

以上

そ の 他：

理事より寄せられた意見について、下記のとおり、学術用語委員会からの回答とする。

今回理事会に諮りました「老年歯科医学用語辞典 第2版」に関する追加訂正意見について2名の先生方からそれぞれ1項目の追加と訂正の意見がございましたので、学術用語委員会としての結論を含めて報告させていただきます。

1. 「口腔癌」について追加と訂正の意見があり、下記のアンダーラインに示すように英文と解説を追加いたしました。

口腔癌

こうくうがん

oral cancer, carcinoma of oral cavity

口腔内に生じる悪性腫瘍（癌）の総称。口腔癌の90%以上は口腔粘膜上皮や唾液腺上皮から発生するため一般に口腔癌と呼ばれることが多い。口腔癌の発生頻度は全悪性腫瘍の2～4%程度で、そのうち扁平上皮癌が約80%を占める。そのほかに腺様嚢胞癌、粘表皮癌などさまざまな悪性腫瘍が生じる。部位別発症は舌がもっとも多く、ついで下顎歯肉、口底、上顎歯肉、上顎洞などの順位となっている。誘因としては喫煙、食習慣、生活習慣、そして局所的にはう蝕や不良補綴装置の物理的的刺激などが関連して発症すると考えられている。治療としては外科的療法、放射線療法、化学療法あるいはそれらを併用した療法が行われている。

2. 「訪問歯科診療」について、下記の意見がありました。

『訪問歯科診療』というのは、ずっと以前から申し上げているように間違った使い方として厚労省も指摘しています。是非、「歯科訪問診療」に変更するよう強くお願い申し上げます。専門学会として恥ずかしいことと考えます。」

この意見に関して詳細な調査をしたところ、「歯科医師国家試験出題基準（平成26年版）」および「日本歯科医学会学術用語集」では「歯科訪問診療」という用語は見あたらず、「訪問歯科診療」を採用しておりました。さらに、厚生労働省の歯科保健課にも問い合わせたところ、「医療保険の用語としては『歯科訪問診療』を使っているが、『訪問歯科診療』という用語を否定しているわけではない（両方とも誤った使い方ではない：鳥山課長）」との回答であった。

この結果を受けて学術用語委員会は、「訪問歯科診療」と「歯科訪問診療」の両者を「見出し語」とし、解説は「訪問歯科診療」に付け、「歯科訪問診療」には同義語として「訪問歯科診療」を参照するようにした。

以上